



Title	中国の若者の人づきあいスタイルについての研究 : 自由記述調査によるカテゴリカルな検討
Author(s)	毛, 新華; 大坊, 郁夫
Citation	対人社会心理学研究. 2006, 6, p. 81-88
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/10400">https://doi.org/10.18910/10400</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

# 中国の若者の人づきあいスタイルについての研究<sup>1) 2)</sup>

## —自由記述調査によるカテゴリカルな検討—

毛 新華 (大阪大学大学院人間科学研究科)

大坊郁夫 (大阪大学大学院人間科学研究科)

大方の人は円滑な「人づきあい」を求めている。「円滑な人づきあい」には社会的スキルが有効である。このようなスキルは万国共通の部分もあれば、文化によって異なる部分もあると先行研究で示唆されている。文化に特有の社会的スキルを測る尺度は欧米および日本においては、すでに多く開発されたのに対して、中国では、その必要性があるにもかかわらず、オリジナルなものが存在しない。そこで、本研究では、中国人を対象とした尺度を開発する前段階として、中国人の人づきあいを第三者的な立場から認識できると考えられる日本に滞在している中国人留学生(滞在経験者も含む)と中国に滞在している日本人留学生(滞在経験者も含む)を対象にして、自由記述調査を通して、中国の若者の人づきあいスタイルをまとめた。まとめた内容には多文化で用いられる尺度と一致する内容が存在すると共に、独自に中国文化に基づくものも見られた。本研究の知見を踏まえて、今後、通文化的なスキル内容を含んだ中国文化を反映した社会的スキル尺度作成をさらに進めていく必要性が示唆された。

キーワード: 社会的スキル、中国の若者、対人関係、文化、自由記述調査

### 問題

大方の人は円滑な「人づきあい」を求めている。なぜなら、社会生活を送っている私たちは、好むと好まざるとにかかわらず、様々な分野にわたって、多くの人とつきあわなければならない。人とのつきあいの中で、つきあいが順調である場合には、人々は快適で、満足した社会生活を送ることができる。しかし、それがうまくいかないと、人々は孤独感を感じたり、うつ症状が起きたり、ストレス状態に陥ったりして(相川, 1992, 2000)、精神状態が不安定になりがちであり、生活の質が大幅に落ちてしまう。また、Argyle & Henderson(1985)も、人づきあいは人々に満足をもたらす原因になり、困惑や悩みをもたらす原因にもなると指摘している。このように、より円滑な人づきあいは人々にとってたいへん重要である。

人づきあいを円滑するにあたって、何らかの方法や手段、すなわち社会的スキルを講じる必要がある。しかし、堀毛(1994)や高井(1994)、毛(2005)が指摘したように、この種のスキルは文化によって規定され、どの文化でも必要とする普遍的なスキルが存在すると共に、個々の文化に特有なものもある。たとえば、個人主義文化のアメリカでは、アサーションスキルが大事で、「曖昧」を特徴とする日本では、察知スキルなどが必要とし(Takai & Ota, 1994)、「面子」文化の中国では、相手を立てることが重要である。

一方、人々のスキルの程度の違いという個人差が存在する。社会心理学の研究分野においては、このような人づきあいスキルの個人差を調べる技法として、自己評定法、他者評定法、役割演技法、面接法、自然観察法などがあげられている(堀毛, 1990; 庄司・小林・鈴木, 1989)。なかでも手続きが簡便で、短時間で評定することができるなど

の理由によって、自己評定法は多く受け入れられ、ポピュラーな、そして効果的な評価手段となっている。

上記のスキルの評価手段とスキルの文化による特殊性を総合的に考えると、より厳密に人々のスキルを評価するには、その文化に適するスキル尺度が必要となる。これまで、欧米および日本では、自国文化に基づく自己評定尺度が数多く開発されてきた。たとえば、Riggio(1986)は情動的表出、社会的表出、情緒的感受性、社会的感受性、情緒的統制、社会的統制、社会的操作の7側面で構成された105項目からなる社会的スキル尺度(Social Skill Inventory: SSI)を作成した。Friedman, Prince, Riggio, & DiMatteo(1980)は感情的コミュニケーション尺度(Affective Communication Test: ACT)を開発した。Goldstein, Sprafkin, Gershaw, & Klein(1986)は若者のための社会的スキルリストを作成した。そして、日本では、堀毛(1987, 1988, 1994)の人あたりのよさ尺度(HT-44)や Takai & Ota(1994)の日本的対人コンピテンス尺度(Japanese Interpersonal Communication Competence: JICS)などがある。

しかしながら、世界の「工場」と言われ、目覚ましい経済成長を遂げた現在の中国では、スキル尺度が客観的に必要であるにもかかわらず、欧米および日本の翻訳尺度(侯, 2002, 2003; 毛, 2005; 庄・甘・刘, 2004)しかなく、オリジナルなものが存在しないのが現状である。中国でスキル尺度の必要性は主に若者の社会的スキルへの注目から理解される。なぜなら、中国のIT産業の急成長による若者の間での電子・携帯メール、チャットなどによる間接なコミュニケーションの広がりや一人っ子政策の継続による若者の他者につきあう経験の減少などにより、若者の社会的スキルの低下をもたらす可能性(大坊, 2003; 毛, 2005;

刘, 1988; 依田, 1996)があるからである。

さらに、人づきあいスキルの翻訳版の尺度については、高井(1994)や Takai & Ota(1994)は、翻訳版の尺度に文化的等価性(cultural equivalence)の限界があるなど、翻訳尺度の欠点を指摘している。また、中国で使われた欧米の翻訳尺度について、童(2002)は、中国人と欧米人は心理的特徴が大きく異なり、欧米人を基準に開発した尺度は完全に中国人の基準に合致することが難しいと主張した。このように、他国の人を基準にした尺度の翻訳版を用いて測定すると、測定精度が大幅に低下する可能性が考えられる。

以上のことから、より正確に中国の若者の人づきあいスキルを把握するためには、中国の実情や文化に相応しい測定尺度が必要だと考えられる。そこで、本研究は、新たな中国版の尺度を開発する前段階として、尺度の候補項目の収集を目的とする。

これまでの研究では、特定の国や地域の文化をとらえようとする際には、その国にずっと生活している人よりも、客観的にその国の事情を認識できる人から知見を得ようとしていることが多い(e.g., Benedict, 1946 や末田, 1995)。なぜなら、その国で生活している人は自国の特徴を当然視し、あまり気づかないことが多いからである。日本文化を理解する必読書として、「菊と刀」(Benedict, 1946)があるが、この著者は、素材の最も重要な情報源を日本に住んでいる日本人ではなく、在米の一世日本人で、米国のこともよく知る日本人に求めていた。すなわち、このような人たちからは滞在国の諸様相と比べてから初めて気づく自分たちの特徴が得られることになる。また、末田(1995)は中国人の面子意識を調べる研究のように、日本にいる中国人だけではなく、中国に実際行ったことのある日本人の視点も導入していた。すなわち、他国へ行ったことのある人たちから、彼らの自国の諸様相と比べて初めて気づく滞在国内の人々の特徴を引き出すことができると考えられる。

このように見ると、ある国の事情について知るためには、その国の文化を背景に他国のこともよく知る人々、そして他国の文化を背景にその国のことをよく判断できる人々への調査が求められる。これにより、その国の特徴が把握しやすいのではないかと考えられる。

そこで、本研究では、日本に滞在している中国人留学生(滞在経験者も含む)と中国に滞在している日本人留学生(滞在経験者も含む)を調査対象者として、中国の若者の人づきあい特徴について調査を行った。

## 方法

**調査対象者と時期** 日本の大学および大学院に留学している、あるいは留学したことのある中国人留学生 56 名(男性 26 名、女性 30 名、平均年齢 28.30±3.61)と、中国

の大学に留学している、あるいは留学したことのある日本人留学生 66 名(男性 27 名、女性 39 名、平均年齢 25.76±4.73)を調査対象者とした。調査時期は 2004 年 7 月～9 月であった。

**調査内容および回答** 質問紙は、無記名式で、「中国人の人づきあいに関する調査」と題し、基本属性の項目と自由記述項目から構成されていた。基本属性の項目では、調査対象者の性別、年齢、出身地域、学歴、留学するまでの仕事経験の有無および期間、留学先の地域、留学年数などの質問項目を設定した。自由記述項目では、中国人留学生と日本人留学生の両方に対して、共通する 4 つの質問を設定した。

- ①中国人と比べた場合の日本人の人づきあいの特徴
- ②中国人同士の関係で人づきあいがうまい人の特徴
- ③中国人同士の関係で人づきあいが苦手(下手)な人の特徴
- ④中国人同士の人づきあいにおいて、「中国人に特有」と言える特徴

さらに、中国人留学生に対して「中国で中国人と良い関係を築くために、気を配る面や行った行動」、日本人留学生に「中国人との関わりを通して、中国人の付き合い方が日本人の付き合い方と違うところ」を問う質問を加え、両留学生グループにそれぞれ計 5 つの質問を設定した。すべての自由記述項目は箇条書の形式で回答してもらった。

**質問紙の質問言語および回答の翻訳** 質問紙で用いられた質問言語は、中国人留学生の場合は中国語、日本人留学生の場合は日本語であった。回答の際に使用する言語は特に指示しなかった。中国人留学生のうち、11 名からは日本語で、残りの 45 名からは中国語による回答が得られた。これに対し、日本人留学生からは全員日本語による回答が得られた。中国語で得られた回答は日本の大学院に在籍し、留学年数 5 年以上の中国人留学生 3 名によって日本語に訳された。

**分析方法** 基本属性項目についての統計分析はすべて PC-SAS Ver.8.2 によって行われた。5 つの自由記述の質問に関しては、KJ 法(川喜田, 1986)に基づき、社会心理学を専攻する大学院生 2 名が協議をしながら、回答の分析・整理を行った。

## 結果と考察

### 調査対象者の基本属性

**年齢** 中国人留学生(男性 27.95±3.67 歳; 女性 28.60±3.60 歳)と日本人留学生(男性 25.03±4.11 歳; 女性 26.26±5.11 歳)のいずれのグループにおいても、男女の年齢差は有意ではなかった( $t(54) = 0.67, ns$ ;  $t(64) = 1.04, ns$ )。したがって、両グループから得られた回答には、男女の年齢差による影響は少ないものと考えられる。しか

し、年齢についての国の差(中国: 28.30±3.61 歳; 日本: 25.76±4.73 歳)は有意であった( $t(120) = 3.29, p < .001$ )。中国人留学生在が日本人留学生より平均で 2.5 歳年上であった。

**出身地域および留学先** 中国人留学生的の場合、中国の北部出身の者が 35 名で、全体の 85.7%を占めていた。そのため、調査で得られた回答は中国の北部の人々の意見を代表していると考えられる。また、彼らの留学先は 81.8%が関西地域の大学に集中していた。一方、日本人留学生的の出身地は日本全国に散らばっており、彼らの留学先は 7 割が中国北部都市に集中していた。

**相手国に留学するまでの学歴** 中国人留学生と日本人留学生的のいずれも、高学歴である。中国人留学生では、大学専科卒業<sup>9)</sup>以上の人は 41 名で、全体の 73.2%を占めていた。日本人留学生的の場合、大学卒業以上の人は 43 名で、全体の 65.2%を占めていた。

**相手国に留学するまでの仕事経験** 中国人留学生的の場合 36 名、全体の 64.3%が仕事(アルバイトを含む)を経験したことがあり、日本人留学生的の場合 62 名、全体の 93.9%が仕事を経験したことがあった。また、仕事の経験年数については、中国人留学生と日本人留学生はそれぞれ 3.73±2.58( $n = 34$ )年、3.41±2.89( $n = 62$ )年であった。中国人留学生と日本人留学生的の学歴と職歴のデータから、両グループの調査対象者は相手国へ行くまでに十分な学校教育を受けており、それぞれの国では、それなりの仕事・社会生活の経験を持っていて、相対的に自国社会の社会事情を認識する力を持っているのではないかと考えられる。

**留学年数** 中国人留学生的の留学年数は 4.40±1.89( $n = 53$ )年である。これに対して、日本人留学生は 1.45±1.04( $n = 66$ )年となり、中国人留学生的の留学年数より短い。しかし、留学年数の平均値から、両方、少なくとも一年半前後に相手国に滞在し、相手国の人のつきあいを身近で体験することができたと思われる。この意味において、本研究の調査対象者は相手国の人の人間関係を理解していると同時に自国社会での人間関係を振り返ることもできたのではないかと考えられる。

### 自由記述項目

中国人留学生に対する 5 つの質問から合計 721 記述、平均で 1 人あたりから 12.88±8.26 記述が得られた。これに対して、日本人留学生に対する 5 つの質問から合計 633 記述、平均で 1 人あたりから 9.59±4.75 記述が得られた。質問ごとに記述の整理が行われ、累積度数が 2 以下の回答はカテゴリー化の対象としなかった。

「中国人と比べた場合の日本人のつきあいの特徴」という質問に対して、中日両国の留学生から共通に「距離感」、「表出しない」、「上下関係」、「和の維持」、「相手に気

Table 1 日本人のつきあいの特徴だと考えられるカテゴリー

合計度数	日本人の特徴(中) <sup>*1</sup>		上位カテゴリー	日本人の特徴(日) <sup>*2</sup>		合計度数
	度数	カテゴリー		度数	カテゴリー	
50	10	冷淡 距離感 親密関係になりにくい お金で線を引き 遠慮 真心を持たない 形式重視 コミュニケーションをみにくい	距離感	9	希薄な人間関係	9
	7			距離(心理・物理的)を置く	10	
	5			友情を築めるのに時間がかかる	4	
	3			お金の公平性	2	
	3			遠慮する	7	
20	9	本音を表出しない 言動の曖昧さ 意見を述べない	表出しない	7	本音と建前	7
	7			曖昧	3	
	4			自分の意見を主張しない	8	
				言われない	7	
				感情を出さない	5	
3	3	上下関係	上下関係	4	遠まわし ノーと言えない 言葉によらないコミュニケーション	4
	7			上下関係	3	
	3			礼儀重視	4	
	2			相手との折り合い	3	
	3			非を指摘しない	3	
17	4	褒め上手 お礼を返す 協調	和の維持	3	トラブルを避ける	3
	3			取り繕うための笑い	3	
	3			酔れる	5	
	12			人の目	4	
	5			人を扱う・思いやり 他人に迷惑をかけない	相手に気をつかう 相手に気遣う	8
112	合計			134	合計	

\*1 日本人の特徴(中): 中国人と比べて、日本人のつきあいの特徴(中国人留学生)

\*2 日本人の特徴(日): 中国人と比べて、日本人のつきあいの特徴(日本人留学生)

を遣う」という 5 つの上位カテゴリーを得た (Table 1)。このうち、「表出しない」および「上下関係」という上位カテゴリーのそれぞれは日本の文化に基づいて開発された「日本的対人コンピテンス尺度」(Takai & Ota, 1994)の「察知」因子および「上下関係の調整」因子の内容とよく類似している。この類似性は、本研究の調査対象者から得た意見の一般性を示唆するものと考えられる。

「中国人同士の関係でつきあいがうまい人の特徴」という質問に対して、中国人留学生から「思いやりがある」、「人の面倒を見る」、「円滑性」、「人を受け入れる」、「付き合いが広い」、「明朗さ」、「相手を立てる」、「リーダーシップ」、「誠実さ」、「利得を譲る」という 10 の上位カテゴリーを、そして、日本人留学生から「思いやりがある」、「人の面倒を見る」、「円滑性」、「人を受け入れる」、「付き合いが広い」、「明朗さ」、「相手を立てる」、「リーダーシップ」、「約束を守る」、「話がうまい」、「主張性」、「積極性」、「酒つきあい」、「人間関係において策を講じる人」という 14 の上位カテゴリーが得られた。両者の上位カテゴリーが共通している部分が多くある。これとは別に、中国人留学生に聞いた「中国で中国人と良い関係を築くために、気を配る面や行った行動」という質問から得た「思いやりがある」、「人の面倒を見る」、「円滑性」、「人を受け入れる」、「付き合いが広い」、「約束を守る」、「誠実さ」、「利得を譲る」という 8 つの上位カテゴリーは前述した両者と類似しているため、三者を統合した (Table 2)。

「中国人同士の関係でつきあいが苦手(下手)な人の特徴」という質問に対して、中国人留学生から「己を強調する」、「人を受け入れない」、「人とつきあう姿勢を示さない」、「思いやりがない」、「陰口をたたく」、「目先の利益」、「人を助けられない」という 7 つの上位カテゴリーが得られた。日本人留学生から「己を強調する」、「人を受け入れない」、「人と

Table 2 中国人の人づきあいでは上手だと考えられるカテゴリー

気をつけたこと(中) <sup>*1</sup>		上位 カテゴリー	うまい(中) <sup>*2</sup>		上位 カテゴリー	うまい(日) <sup>*3</sup>		合計 度数	
合計 度数	度数		カテゴリー	度数		カテゴリー	度数		合計 度数
28	10	相手への思いやり	思いやりがある	12	思いやりがある	6	8	相手のことを配慮する人	
	6	発言に気をつける		5		相手の意見を尊重する人		2	
	6	人のプライバシーへの配慮		2					
	3	相手を尊重する		6					
	3	お願い事をしない							
12	人を助ける	人の面倒を見る	9	9	人の面倒を見る	5	5	面倒見の良い人	
43	7	まわりに合わせる	円滑性	7	円滑性	2	7	柔軟性がある	
	2	相手の面子を保つ		3		相手に合わせる人		2	
	3	戦略的に相手を喜ばす		3		短所を指摘しない		1	
	8	争わない		3		臨機応変		2	
	7	陰口をたたかない		6		争いへの回避			
	2	利害関係を避け		3		陰口をたたかない			
	3	嫌いな話題を避ける		3		中立の立場			
	11	良く付き合う		2		忍耐			
		2		寛容心		2		婉曲	
		3		人を傾聴する		6		傾聴する	5
	5	2		寛容心		5		寛容	2
2	2	誰とも仲良く	5	7	6	6	幅広く付き合える人		
		誰とも仲良く	2	7	10	10	相手を立てる人		
		誰とも仲良く	2	10	5	5	リーダーシップを発揮できる人		
		誰とも仲良く	3	10	2	2	約束を守る人		
		誰とも仲良く	3	10	4	7	話がうまい人		
		誰とも仲良く	4	9	3	4	ユーモア・ひょうきんさ		
		誰とも仲良く	2	9	4	4	主張できる人		
		誰とも仲良く	2	9	2	4	積極的な人		
		誰とも仲良く	2	9	2	5	話をかける人		
		誰とも仲良く	2	9	5	5	お酒を利用できる人		
		誰とも仲良く	2	9	4	4	人間関係において策を講じる人		
		誰とも仲良く	2	9	2	2	人間関係において策を講じる人		
2	2	約束を守る	約束を守る	2	2	2			
7	5	誠心誠意	誠実さ	2	2				
	2	信頼関係	誠実さ	7	10				
3	3	気前が良い	利得を譲る	3					
		気前が良い	相手に得を譲る	7	10				
		気前が良い	お金でけちけちしない	3					
102	合計			117	合計	81			

\*1 気をつけたこと(中): 中国で人と良い関係を築くに、気を配る面や行った行動(中国人留学生に対する質問)

\*2 うまい(中): 中国人同士の関係で人づきあいがうまい人の特徴(中国人留学生に対する質問)

\*3 うまい(日): 中国人同士の関係で人づきあいがうまい人の特徴(日本人留学生に対する質問)

\*4 他の質問の上位カテゴリーと共通しない上位カテゴリー

つきあう姿勢を示さない」、「己を出さない」、「過度の表出」、「話が下手」、「相手を立てない」、「酒・食事を楽しまない」という 8 つの上位カテゴリーが得られた。両者から類似した上位カテゴリーが見られた(Table 3)。

「中国人同士の人づきあいにおいて、『中国人に特有』と言える特徴」という質問に対して、中国人留学生から「親密な関係」、「人を助ける」、「親しみやすい」、「類の意識」、「面子重視」、「酒づきあい」、「思いやりがない」、「コネ社会」、「人間不信」、「自分の利益のために」という 10 のカテゴリーが得られた。日本人留学生から「親密な関係」、「人を助ける」、「親しみやすい」、「類の意識」、「面子重視」、「酒づきあい」、「思いやりがない」、「コネ社会」、「自己主張」、「上下関係」という 10 のカテゴリーが得られた。両者の答えが類似している部分が多くある。また、日本人留学生に聞いた「中国人との関わりを通して、中国人の付き合い方が日本人の付き合い方と違うところ」という質問から得た「親密な関係」、「人を助ける」、「親しみやすい」、

Table 3 中国人の人づきあいでは下手だと考えられるカテゴリー

下手(中) <sup>*1</sup>		上位 カテゴリー	下手(日) <sup>*2</sup>		合計 度数			
合計 度数	度数		カテゴリー	度数				
49	20	自己中心	己を強調する	6	9	自己中心		
	9	我が強い		3		プライドが高い		
	5	強固な人						
	4	自尊自大						
	3	ほらを吹く						
	3	独り善がり						
	2	アドバイスを聞かずに、我が意を押しつける						
	2	考えを押しつける						
	2	自分の考えをはっきりさせる						
	2	日頃につき合わず、用事があるとき人を頼む						
3	3	度量が小さい	2	8	2	8	人を受け入れない	
4	4	付き合いが悪い	2	5	2	5	人との付き合い方を軽視する	
8	2	冷淡	2	5	2	5	ぶっきらぼう	
	2	真面目すぎる						
38	11	配慮せず発言する	思いやりがない	6	33	6	33	消極的な人
	7	発言が人を傷つける		6		内向的		
	6	発言が卑屈		5		話をしない		
	6	思いやりがない		4		主張しない		
	5	相手の面子を潰す		4		主張できない		
	3	他者尊重をしない		3		遠慮する人		
	3	陰口をたたく		3		話しかけない人		
8	8	ケチ	2	14	2	14	自分のことを話さない	
6	6	ちよつとした唇に目が軽む	4	14	4	14	過度の自己主張	
3	3	人を助けられない	2	14	2	14	こらえ性がいい	
		人を助けられない	2	14	2	14	正直すぎる	
		人を助けられない	2	14	2	14	話が下手	
		人を助けられない	2	14	2	14	相手を立てない	
		人を助けられない	2	14	2	14	相手をおちあけられない	
		人を助けられない	2	14	2	14	酒・食事を楽しまない	
117	合計			81	合計	81		

\*1 下手(中): 中国人同士の関係で人づきあいが下手(下手)な人の特徴(中国人留学生)

\*2 下手(日): 中国人同士の関係で人づきあいが下手(下手)な人の特徴(日本人留学生)

Table4 中国人の人づきあい「特有なもの」と考えられるカテゴリー

中国人に特有(中) <sup>*1</sup>		上位カテゴリー	中国人に特有(日) <sup>*2</sup>		上位カテゴリー	区別(日) <sup>*3</sup>				
合計度数	度数		カテゴリー	度数		合計度数	カテゴリー	度数	合計度数	
32	8	暖かく人と接する	親密な関係	人に親切	18	親密な関係	一度仲良くなる深い関係になる	4	32	
	5	深い友人関係		親密な関係			3	関係が深い		7
	3	相手のプライベートに関心を持つ		プライベートへの関与			5	プライベートへの関与		11
	4	家に招きたがる		家に招きたがる			2			
	5	真心		スキンシップの多さ			2	物理的距離が近い		3
	3	友人との一体感		後腐れのない関係			2	人付き合いがさっぱり		2
	2	経済的境界線がない		仲が良い			2	関係を大切に		5
	2	公私混同								
7	3	人を助ける	人を助ける	面倒見	6	人を助ける	面倒見が良い	5	5	
4	人のために犠牲を払う									
12	6	親しくなるのも早く、冷めてしまうのも早い	親しみやすい	親しみやすい	5	親しみやすい	親しみやすい	6	8	
6	とっつきやすい				親密になるまでの期間が短い		2			
9	3	知り合いかどうかによって対応が異なる	類の意識	知り合いかどうかによって対応が異なる	3	類の意識	知り合いかどうかによって対応が異なる	7	9	
6	同類意識				類の意識が強い		2			
2	2	面子大事	面子重視	面子を大事にする	7	面子重視	プライドが高い	5	12	
				もてなし	2		もてなしが良い	7		
3	3	酒づきあい	酒づきあい	タバコ・酒づきあいの重要性	5	酒づきあい	食事・酒の席を共にするのを重視	3	3	
3	3	相手の立場を考えない			遠慮しない		2	遠慮がない		5
12	5	ストレート	思いやりのない	ストレート	8	思いやりのない	自分の感情を素直に出す	6	18	
	4	人に頼る					頼みごとを遠慮しない	3		
							お礼を言わない	2		
4	4	コネ・人脈大事	コネ社会	コネ社会	4	コネ社会	相手を気にせず話す	2	4	
5	3	信頼できる人は限られている	人間不信	自己主張する	8	自己主張	主張する	8	27	
	2	表面的暖かさ		強引さ	2		意見を押し付けようとする	7		
				非を認めない	2		非を認めない	5		
				対人衝突	4		友情の押し売り	7		
10	10	損得勘定	自分の利益のために*4	上下関係が薄い	2	上下関係*4	信頼関係がない	2	2	
96 合計				合計 78				合計 116		

\*1 中国人に特有(中): 中国人同士の人づきあいにおいて、『中国人に特有』と言える特徴(中国人留学生に対する質問)  
 \*2 中国人に特有(日): 中国人同士の人づきあいにおいて、『中国人に特有』と言える特徴(日本人留学生に対する質問)  
 \*3 区別(日): 中国人との関わりを通して、中国人の付き合い方は日本人の付き合い方と違うところ(日本人留学生に対する質問)  
 \*4 他の質問の上位カテゴリーと共通しない上位カテゴリー

「類の意識」、「面子重視」、「酒づきあい」、「思いやりのない」、「自己主張」、「人間不信」という 9 つのカテゴリーは『中国人に特有』と言える特徴という質問の回答との類似点があり、三者を統合した(Table4)。

Table2、3、4 を概観すると、中国人の人づきあいに関する質問に対する回答では、質問が異なっても、「人の面倒を見る」と「人を助ける」のように、ほぼ同様のカテゴリーが見られた。その一方で、「相手を立てる」と「相手を立てない」といったような反対の意味で対になるカテゴリーも多く存在していた。そこで、意味の上でほぼ同じであるカテゴリーを合体し、正反対の意味を持つ対カテゴリーを一つとしてまとめ、最終的に 11 の単独上位カテゴリーと 11 の対の上位カテゴリーに集約できた(Table5)。

それぞれの対/単独上位カテゴリーが再統合(合体など)され、規模(見出しの数)の異なる上位カテゴリーができた。それぞれの上位カテゴリーに含まれるカテゴリーの数を合わせ、元の自由記述を参照に、最終的に 96 項目をまとめた(Table6)。

本研究で得られたカテゴリーや内容には、通文化的だと言われ、中国でも信頼性、妥当性が確認された先行研究の翻訳尺度(KISS-18 など)に認められた社会的スキルの内容(e.g., 「人を助ける」や「会話開始」など)が含まれている一方、「面子重視」、「相手を立てる-相手を立てない」、「酒づきあい-酒・食事で

Table 5 上位カテゴリーを統合した結果

対になっている上位カテゴリー	単独上位カテゴリー
思いやりがある ⇔ 思いやりのない	付き合いが広い
人の面倒を見る&助ける ⇔ 人を助けない	リーダーシップ
円滑性 ⇔ 陰口をたく	積極性
人を受け入れる ⇔ 人を受け入れない	親密な関係
明朗さ ⇔ 人と付き合う姿勢を示さない	親しみやすい
相手を立てる ⇔ 相手を立てない	コネ社会
利得を譲る ⇔ 自分の利益のために& 目先の利益	約束を守る
話がうまい ⇔ 話が下手	上下関係
酒づきあい ⇔ 酒・食事で楽しめない	類の意識
誠実さ ⇔ 人間不信	面子重視
自己主張& 主張性& 過度の表出& 己を強調する ⇔ 己を出さない	人間関係に
	おいて策を講じる人

楽しめない」、「コネ社会」などのような、中国の事情および文化に基づく内容が示されている。

Cheung, Leung, Fan, Song, Zhang, & Zhang (1996)は、中国文化において、面子と人間関係が緊密に関連していると述べている。易(2000)は、中国人の人間関係は「面子」によって処理され、維持されていると主張し、「面子」問題の重要性を指摘している。本研究では、自分の面子を重視する「面子重視」のカテゴリーだけではなく、相手の面子を重視する「相手を立てる-相手を立てない」カテゴリーが円滑な対人関係を築く要素となることが改めて確認された。

易(2000)は食事の歴史をレビューし、中国人の食事の特徴が「共食(共に食べる)」にあるとした。すなわち、中国人は人と一緒に食事をするのが「生命の源を共有した」と認識し、「共食」した人との関係が「共

Table 6 上位カテゴリーを構成した代表記述

<p>思いやりがあるー思いやりがない(11)</p> <p>自分の発言や行動において、相手の痛いところに触れるのをできるだけ避けようとする。私はいつも相手の立場に立って物事を考える。私は相手の意見を尊重する方である。人のプライベートなことにあまり触れない。私はお金を借りるなど、よく頼みごとをする。私は細かいところまで人を思いやる。自分は人の気持ちをよく理解できると思う。相手のことを尊重するように気をつけている。相手に自分の感情を全てぶつける。私はあまり「ありがとう」を言わない。相手に遠慮する。</p>	<p>自己主張&amp;主張性&amp;過度の表出&amp;己を強調する一己を出さない(12)</p> <p>相手と意見が違っても、自分の意見を曲げたり、相手に合わせたりしない。いつも自分の意見や考えを表明する方である。たとえ自分のミスであっても、それを認めない。自分が面白いと思う映画や本などがあれば、ぜひとも友達に勧めたい。相手はどう思うかわからないが、相手に対する友好的な気持を伝える。自分の意見を相手に納得させようと努力する。人と比べて、喧嘩したりなど争いことが多い。私はいつも事実に基づいて話をする。個性が強いといわれたことがある。私はいつもへりくだった態度でいるように心がけている。自分は誰よりも出来るのいい人間だと思う。私は自分の考えがあるから、あまり友達のアドバイスを聞く必要がないと思う。</p>
<p>人の面倒を見る&amp;助けるー人を助けない(3)</p> <p>よく友達を助ける。友達が困っている時に力を貸してあげる。人に頼られると、非常に面倒だと感じる。</p>	<p>付き合いが広い(3)</p> <p>誰とでも仲良くつき合うことができる。いろいろな人とつながりを持っている。いつも人と協調するように心がけている。</p>
<p>円滑性ー陰口をたたく(15)</p> <p>時々人のことをやかく言う。よく友達と連絡を取ったり、一緒にショッピングに出かけたり、イベントに参加したりする。できる限り人の争いや衝突を避ける。自分が好きではないことでも、興ざめしないように、一緒につき合う。臨機応変に、相手の話の流れに合わせる。つき合う相手の短所に触れることを極力避ける。相手の面子を潰さない。他人同士の争いにどちらにもかたよらず、中立の立場をとる。角が立たないように物事に対応している。双方の利益に関係することに触れないでおく。できるだけ相手が嫌がる話題や相手と意見対立しそうな話題を避ける。私は何でもストレートに言う。人づき合いの中で、私はとても我慢強い方である。私の考え方は少し固いと思う。相手を喜ばすためにいろいろな方法を考える。</p>	<p>リーダーシップ(3)</p> <p>私は、周りの人の感情をどうすればうまくコントロールできるかを知っている。どうすれば周りの人たちをまとめることができるかわからない。人に頼りにされるのがよくある。</p> <p>積極性(2)</p> <p>人見知りせず、どこでもとびこんでいける。自分から積極的に話しかける。</p> <p>親密な関係(10)</p> <p>人に暖かく接する。深く人とつき合うのがいやである。友達と一体感をもってつき合う。一度知り合いになったら他人に対して親身になって接する。友人とのつながりをとても大切にする。よく友達を家に招く。友達とお互い、家のことやプライベートな話をする。相手と近い距離で話す。友達と割り勘をしない。人と真心を持ってつき合う。</p>
<p>人を受け入れるー人を受け入れない(2)</p> <p>人の失敗を大目に見ることが出来ない。相手の話に耳を傾ける。</p>	<p>親しみやすい(3)</p> <p>見知らぬ人でも、すぐ仲良くなる。自ら人と親しくなろうとしない。相手がただの知り合いから自分の親密な友達になるまでそれほど時間がかからな</p>
<p>明朗さー一人とつきあう姿勢を示さない(2)</p> <p>いつも笑顔で人とつき合う。物腰が柔らかいと言われる。</p>	<p>親しみやすい(3)</p> <p>見知らぬ人でも、すぐ仲良くなる。自ら人と親しくなろうとしない。相手がただの知り合いから自分の親密な友達になるまでそれほど時間がかからな</p>
<p>「相手を立てるー相手を立てない(4)</p> <p>話をしている相手の長所によく触れる。いつも相手の面子を立てよう心がけている。たとえ本当にそう思わなくても、相手のことを褒めたりする。ばつが悪い時、私はいつも相手に引込みがつくようにする。</p>	<p>コネ社会(2)</p> <p>私は人脈を重視する方である。普段、私はできるだけたくさんコネを作るように心がけている。</p>
<p>利得を譲るー自分の利益のために&amp;自分の利益(6)</p> <p>気がよく、お金のことでげちげちしない。友達とのつき合いでは、自分がちよと損しても構わないと思う。友達との間で損得の衝突が生じた時には、相手に譲る。私は相手の金銭や地位などバックグラウンドを知りたくて仕方がない。自分に役に立つ者と積極的につき合う。たとえちよとした得であっても、それを得ようとする。</p>	<p>約束を守る(2)</p> <p>人に約束したことを守る。時々、約束時間に遅れたり、約束そのものをすっぽかすことがある。</p> <p>上下関係(2)</p> <p>目上の人に常に敬意を表す言葉遣いをする。上下関係をたえず意識している。</p>
<p>話がうまいー話が下手(2)</p> <p>自分の話で人を笑わす自信がある。人と一緒にいる時、共通の話題をすぐ見つけることができる。</p>	<p>類の意識(2)</p> <p>私は、同郷などによる仲間意識がとても強い。私は知り合いとそうでない人に対する対応が違う。</p>
<p>酒づきあいー酒・食事で楽しめる(3)</p> <p>よく友人と食事に出かけたり、飲みに行ったりする。一緒に食事やお酒の席を共にすることを大事にする。飲食のつき合いをコミュニケーションの手段とする。</p>	<p>面子重視(3)</p> <p>私は自分の面子をととても大事にする。今までに得た賞や残した業績などをよく友達に話す。友達をととても暖かくもてなす。</p>
<p>誠実さー人間不信(3)</p> <p>常に周りに「信頼できる」という印象を与える。あまり他人の人を信用していない。誠心誠意を持って友達と接する。</p>	<p>人間関係において策を講じる人(1)</p> <p>いろいろ考えて、最も妥当な方法で目上の人や友達とつき合う。</p>

註:( )の中の数値はこの上位カテゴリーに含まれる項目の数

有」で結ばれ、「共に」という考えに基づき、次第に親しい関係になっていくと述べた。本研究では、「酒づきあいー酒・食事で楽しめない」カテゴリーは両グループの留学生から得られ、酒・食事のつきあいが中国の人づきあいに影響力を持つことを反映したと考えられる。

中国社会では、相手とコネ関係を結ぶことが物事をうまく運ぶことにつながる重要な側面である。このことは秦(2005)が指摘したように、法治より「人治」の部分が多い中国社会では、人間関係を「コネ」を省いては語れないということである。本研究では、中国人の人づきあいの「特有なもの」としたこの「コネ社会」カテゴリーは、「酒づきあい」カテゴリーと同様、従来のスキルでは考えられなかったものであり、中国人の人づきあいに特徴的な部分であると考えられる。

### 課題と今後の展望

本研究では、文化に特有の社会的スキルを測る尺度が必要であるにもかかわらず、中国にオリジナルなものが存在しないという背景に、中国人を対象とした尺度を開発する前段階として、自由記述調査を通して、中国人の人づきあいスタイルをまとめた。まとめた内容には多文化で用いられる尺度と一致する内容が存在すると共に、独自に中国文化に基づくものも見られた。

しかし、1. 中国は地理的に広く、地域による違いが大きい。本研究の中国人留学生サンプルが中国北部に集中し、日本人留学生のサンプルの留学先は中国北部に集中しているため、本研究の結果には中国北部の特徴が反映されていると考えられる。したがって、この結果が中国を代表することができるかどうかという点では、検討の余地が残される。今後、より広い地域

から意見を収集する必要性が考えられる。また、中国にいる中国人大学生に対して、本研究と類似した調査を行い、「中国人同士のつきあい方」に関する留学生の認識と中国に住んでいる大学生の認識と比較し、中国の若者の人づきあいの特徴を全般的に認識する必要がある。

2. 本研究では、KJ法に基づいてカテゴリーをまとめた。ゆえに、分類者の主観的な考え方に依存してしまう問題点がある。今後、さらにデータ数を増やした上、多次元尺度構成法などの数量的分析を行う必要があると考えられる。

3. 本研究の目的は、中国にこれまでなかった社会的スキル尺度を開発するために候補項目を収集することであった。その結果、翻訳尺度(KiSS-18 など)の項目にも認められるようなスキルの内容と中国文化に基づく内容が候補項目としてあがった。したがって、今後、本研究で得られた項目に基づき、大規模なアンケート調査を通して、通文化的なスキルと文化特有のスキルを両方含んだスキル項目を因子分析などの統計的手法でまとめ、尺度化を試みる。

## 引用文献

- 相川充 1992 大学生における孤独感と自尊心, シャイネス, 社会的スキルとの関係 宮崎大学教育学部紀要(教育科学), 72, 15-26.
- 相川充 2000 人づきあいの技術—社会的スキルの心理学—サイエンス社
- Argyle, M. & Henderson, M. 1985 *The Anatomy of Relationships and the rules and skills needed to manage them successfully*. David & Charles Press, Inc. London (吉森護 編訳 1992 人間関係のルールとスキル 北大路書房)
- Benedict, R. 1946 *The Chrysanthemum and the Sword: Pattern of Japanese Culture*. Houghton Mifflin. (長谷川松治 (訳) 1948 菊と刀: 日本文化の型 社会思想社)
- Cheung F.M., Leung K., Fan R.M., Song W., Zhang J., & Zhang J. 1996 Development of the Chinese Personality Assessment Inventory. *Journal of Cross-cultural Psychology*, 27, 181-199.
- 大坊郁夫 2003 社会的スキル・トレーニングの方法序説: 適応的な対人関係の構築 対人社会心理学研究, 3, 1-8.
- 童輝傑 2002 審視と展望: 心理学的三大測驗技術 南京師大学報(社会科学版), 3, 82-89.
- Friedman, H. S., Prince, L. M., Riggio, R. E., & DiMatteo, M. R. 1980 Understanding and Assessing Nonverbal Expressiveness: The Affective Communication Test. *Journal of Personality and Social Psychology*, 39, 333-351.
- Goldstein, A. P., Sprafkin, R. P., Gershaw, N. J., & Klein, P. 1986 The adolescent: social skill training through structured learning In G. Cartledge, & J. F. Milburn, (Eds.), *Teaching social skills to children*. Pergamon Press.
- 堀毛一也 1987 日本的印象管理様式に関する基礎的検討(1)—社会的スキルとしての人あたりの良さの分析— 日本社会心理学会第 28 回発表論文集, 39.
- 堀毛一也 1988 日本的印象管理様式に関する基礎的検討(2)—「人あたりの良さ」と日本的対人関係— 日本心理学会第 52 回発表論文集, 254.
- 堀毛一也 1990 社会的スキルの習得 齋藤耕二・菊池章夫 (編) ハンドブック社会化の心理学—人間形成の社会と文化— 川島書店, pp.79-100.
- 堀毛一也 1994 社会的スキルを測る 人あたりの良さ尺度 菊池章夫・堀毛一也 編 社会的スキルの心理学 川島書店, pp.168-176.
- 易中天 2000 閑話中国人 上海文艺出版社
- 川喜田二郎 1986 KJ法—渾沌をして語らしめる 中央公論社
- 菊池章夫 1988 思いやりを科学する 川島書店
- 候桂芳 2002 中国における一人っ子大学生の社会的スキル—非一人っ子との比較— 安田女子大学大学院文学研究科紀要, 7, 73-82.
- 候桂芳 2003 中国における一人っ子大学生の社会的スキルと親の養育態度の関係—非一人っ子との比較— 安田女子大学大学院文学研究科紀要, 8, 181-196.
- 毛新華 2005 社会的スキル測定尺度 KiSS-18 の中国の若者への適用 対人社会心理学研究, 5, 85-91.
- Riggio, R. E. 1986 Assessment of basic social skill. *Journal of Personality and Social Psychology*, 51, 649-660.
- 刘亜麗 1988 加強独生子女個性心理研究 心理学探新, 3, 48-52.
- 秦弓 2005 瞧, 那丑陋的人 花城出版社
- 庄司一子・小林正幸・鈴木聡志 1989 子どもの社会的スキルに関する展望(1)—概念と展望— 教育相談研究, 25, 59-70.
- 庄明科・甘怡群・刘海骅 2004 社会技能量表的修訂与初步応用 中国心理衛生雑誌, 18, 755-759.
- 末田清子 1995 「面子」の概念の違いとそれによるコミュニケーション・スタイルの違い: 中国人と日本人 ヒューマン・コミュニケーション研究, 23, 1-14.
- 高井次郎 1994 対人コンピテンス研究と文化的要因 対人行動学研究, 12, 1-7.
- Takai, J. & Ota, H. 1994 Assessing Japanese Interpersonal Communication Competence. *Japanese Journal of Experimental Social Psychology*, 33, 224-236.
- 依田明 1996 一人っ子の心理としつけ あすなろ書房

## 註

- 1) 本稿の作成にあたり、調査に多大な協力をくださった田中仁教授(大阪外国語大学)、久保泰子氏(チャイナエアーカーゴ株式会社)、川村清美氏(関西大学)、相原里美氏(関西外国語大学)、木村昌貴氏(関西大学国際交流センター)を深くお礼を申し上げる。また、紙幅の関係で全ての名前を挙げるのできない回答者の皆さんに深く感謝を申し上げます。
- 2) 本研究の一部は日本心理学会第 69 回大会において報告された。
- 3) 中国の大学には、三年制の専科と四年制の本科に分かれているが、いずれも大学教育とするものである。



## **Chinese young's human relations style:**

A categorical examination using an open-ended questionnaire

Xinhua MAO (*Graduate School of Human Sciences, Osaka University*)

Ikuo DAIBO (*Graduate School of Human Sciences, Osaka University*)

Almost all people expect for smooth human relations, and social skills would be the one to help people engage in that smooth communication. As previous studies have suggested, social skills have some contents which seem to be similar throughout the world and have some contents which seem to be different between cultures. In order to measure social skills within one culture, a lot of scales have been developed in U.S. and Japan. But there is no original one in China in spite of its necessity. For the first stage to develop an original scale in China, item collection was done in this research. Chinese students in Japan and Japanese students in China completed an open-ended questionnaire, and the human relations style of Chinese youth was shaped. Some of contents were consistent with former-already-developed cross-cultural social skill scale, and some were particular only within Chinese culture. The importance and possibility to develop an original social skill scale that reflects Chinese culture as well as cross-culture aspects was discussed.

Keywords: social skills, Chinese youth, interpersonal relationship, culture, open-ended questionnaire.